



仙台大学 広報室

# Monthly Report

## TOKYO2020との連携協定を締結＝仙台大学



参加38大学を代表して挨拶の辞を述べる朴澤学長

仙台大学は5月23日、東京都スポーツ振興局招致推進部及び東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会と、2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動における連携協定を締結しました。東京都庁で行なわれた締結式には、今回協定を締結した国内77大学のうち38大学の代表者及び縁のあるアスリートが出席。第1回の締結大学と合わせて全国82の大学が連携することになりました。

小倉和夫・招致委員会評議会事務総長は、「7割の方が招致に賛同してくれているが、今後はさらに若い人たちの支持が必要。また授業でのオリンピック・パラリンピックについての議論や調査研究、選手・指導者・関係者の人材育成もお願いしたい」と述べ、大学との連携に大きな期待を寄せていることを明らかにしました。

また朴澤泰治本学学長は、参加大学を代表したスピーチの中で、「若い人にとってオリンピックは夢であり、これをぜひ実現したい。教育・研究・社会貢献という大学の使命においても招致活動に協力することはその役割の一つ」とメッセージを発信しました。

オリンピック教育を先導的に推進する筑波大学の真田久教授は、「これだけ多くの大学が連携することは日本のオリンピック史上初めてのことで世界的にも珍しい。近代オリンピックの父・クーベルタン男爵は『オリンピックの理念や精神を継続ならしめるには批判的性格を持つ大学の連携が必要』としたが、今回の連携はそれが具現化されたもの」と、協定締結の意義について解説しました。

本学は5つの連携事項で協定を締結。相互の資源を有効に活用しながら取り組みを進めていきます（「協定書」の連携事項については2面参照のこと）。

&lt;報告：講師 阿部篤志&gt;

### < 目 次 >

TOKYO2020との連携協定を締結	1
吉田事務局長が着任 「春の叙勲」を本多名誉教授が受章	2
ジュニア新体操教室始まる	3
海を越えて輝く学生達(合同報告会)	4
仙台大学と丸森町社会福祉協議会との連携事業	5
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら  
広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関  
にも旬な話題を提供していきたいと考えて  
おります。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、  
広報室までご一報ください。

#### 広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

渡辺誠司 271

土生佐多 200

Email:kouhou@sendai-u.ac.jp



参加38大学によるフォトセッション



東京2020オリンピック・パラリンピック招致に向けて意気込みを見せるアスリートたち



仙台大学から出席した左から朴澤学長、2004年アテネ五輪4×400mR4位・OB佐藤光浩（H17年大学院修了—H15年体育学科卒—日大東北高校出）、阿部

2020年東京オリンピック・パラリンピック招致活動における  
仙台大学と東京都・招致委員会との「協定書」に示された連携事項

- 1) 人的分野及び教育的分野での連携
- 2) オリンピック・パラリンピック招致に関わる研究分野での連携
- 3) オリンピックムーブメント推進に関する連携
- 4) オリンピック・パラリンピック招致に関わる国内PR活動での連携
- 5) スポーツ・健康を通じた被災地支援活動での連携

## 吉田龍哉事務局長、着任挨拶(5月1日付)



吉田龍哉事務局長

はじめまして、5月1日に事務局長に就任しました吉田でございます。  
 生まれは九州熊本です。社会人となったのは昭和49年で、東京大学に採用され、その後、いくつかの国立大学の転勤を経て、宮城教育大学で今年、定年を迎えました。縁あって仙台大学に勤務することとなりました。幸い、阿部副学長とは宮城教育大学で一緒に仕事をさせていただき、若井副学長とは全国教育系大学の会議で縁があり、お二人が副学長でおられることは私にとって心強い限りです。  
 住居のある船岡新栄から大学に向かって歩いていくと、右に雪の残る蔵王連峰が正面に船岡の観音様が見えます。毎日、すがすがしい気持ちで通勤しているところです。また、大学構内に入れば体育大学らしい学生の元気な挨拶があります。  
 「爽やかという字の風が吹いているこの翠なす五月の空を」  
 微力ではございますが「学生生活」・「教育」・「研究」のより良い環境づくりを行っていきたいと思います。学生の皆様、教職員の皆様どうぞよろしくお願いいたします。

## 平成25年「春の叙勲」を本多弘子名誉教授が受章



本多弘子名誉教授

平成25年4月29日付で、平成25年「春の叙勲」受章者が政府より発表され、本学の本多弘子名誉教授が「旭日双光章」を受章しました。長年にわたり、宮城県におけるレクリエーション活動の普及・発展に貢献した功績が認められての受章となりました。

なお、本多弘子名誉教授の叙勲受章記念祝賀会（宮城県レクリエーション協会主催）を平成25年8月31日（土）16時～「ホテル白萩」で開催する予定です。



## 留学生17名がACLベガルタ仙台—江蘇舜天(中国)戦を観戦 —OB蜂須賀選手(ベガルタ仙台)がフル出場し、1アシストの活躍—



留学生17名が5月1日（水）、留学生日本交流事業の一環として、ユアテックスタジアム仙台（仙台市泉区）でACL（アジアチャンピオンズリーグ）1次リーグの最終戦（第6戦）「ベガルタ仙台—江蘇舜天（中国）」の試合を観戦しました。

留学生たちは、日本で初めて観るサッカーの国際試合に、胸を躍らせながらスタジアムへ向かいました。スタジアムに着くや否や、特に中国人留学生はサポーターの中に混ざって大いに盛り上がっていました＝写真左上。得点シーンのたびに一喜一憂し、試合終了（1-2）のホイッスルで江蘇舜天の勝利が決まった瞬間は、歓喜に満ち溢れていました。

ベガルタ仙台は残念ながら惜敗しましたが、

OB蜂須賀孝治選手（H24年体育学科卒—桐生第一高校出）が左サイドバックでフル出場、1アシストの活躍。蜂須賀選手は、本学OBとして誇らしく感じる勇姿を見せてくれました。



試合観戦していた中国人留学生の一人であったろけん蘆健さん（大学院2年—上海体育学院出）は、江蘇舜天の選手に依頼した結果、ユニフォームを頂くことができ、喜びを隠せない様子でした。

今回の観戦には、台湾・ドイツ・中国からの留学生が参加し、皆さんから大変好評でしたが、日本で母国のサッカーチームに触れ合えた中国人留学生にとっては、特にかげがえのないものになったのではないのでしょうか。

<報告：学生支援室 茗荷谷なつみ>

## 平成25年度 ジュニア新体操教室始まる



大学生と一緒にからだを動かす子ども達

5月15日（水）、仙台大学第4体育館2階ダンス・新体操場で「平成25年ジュニア新体操教室」が始まり、3歳から小学校6年生までの男女110名とその保護者が開校式に参加しました。

開校式では、まず本学事業戦略室の半澤和茂課長が諸注意を説明（＝写真上）した後、本学新体操競技部の山梨雅枝副部長が挨拶を述べました。

開校式終了後は、第一回目の教室を行ないました。同教室では、はじめに、「じゃんけん列車」や「障害物競争」のゲームを行ない、みんなで仲良く楽しみました。次に、30分間、柔軟性を身に付けるためのウォーミングアップ。グループ（年齢・性別）に分かれて、簡単な手具操作の練習を行ない、初日を終わりました。

新体操競技部の河野未来監督は「子ども達には、新体操に必要な柔軟性やリズム感を養ってもらい、リボンやフープといった本格的な演技にも挑戦してもらいたい。大学生たちは、子ども達の発達段階に応じた指導法を学んでほしい」「安全面への目配り、気配りをしっかりしていきたい」と話しました。

なお、同教室は仙台大学男・女新体操競技部の学生たちが主体となって、12月初旬まで（毎週水曜日）実施していきます。

## 海を越えて輝く学生達(合同報告会)

**5/13** Mon  
17:30~  
@第5体育館2階  
大教室

仙台大学国際交流センター主催  
**海外留学研修報告会**



どなたでも参加できます。  
海外留学に興味がある人は是非聞きに来てください!

<報告者研修・留学先>

- ・ 台湾・台東大学【短期交換留学】
- ・ フィンランド・カヤーニ応用科学大学【短期交換留学】
- ・ アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校【スポーツ栄養&スポーツマネジメントセミナー】
- ・ アメリカ・ハワイ大学【アスレティックトレーニング研修】【短期英語研修】
- ・ デンマーク・ノアフュンス国民大学【福祉研修】
- ・ ドイツ・カールフォン・オシエツキー大学オルデンブルク【交換留学】

お問い合わせは事業戦略室(A棟1階)まで



海外留学研修報告会案内ポスター

5月13日(月)17:30～ 第五体育館2階の大教室において、平成24年度に実施した海外研修・短期留学他に関し、参加した学生達による合同の報告会が行われ、朴澤学長、キーンナート副学長をはじめ約70名もの多くの出席者が熱心に耳を傾けました。

発表をしたのは以下のとおりです。

- ①アメリカ・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校でのスポーツ栄養&スポーツマネジメントセミナー
- ②アメリカ・ハワイ州立大学でのアスレティックトレーニング研修ビギナーコース
- ③同大学での短期英語研修プログラムNICE
- ④デンマーク・ノアフュンス国民大学での福祉研修プログラム
- ⑤フィンランド・カヤーニ応用科学大学での短期交流留学プログラム
- ⑥台湾・台東大学での短期交換留学プログラム
- ⑦ドイツ・カールフォン・オシエツキー大学オルデンブルクでの交換留学

最初に鎌田国際交流センター長より「海外で学んできた34人の学生達の成果に期待し、積極的な質疑応答をお願い致します」とのご挨拶がありました。

引き続き、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校での研修に参加した9人をはじめ、7つのグループの学生達が現地で学んだ英語やドイツ語に果敢に挑戦し、動画を駆使しながら発表しました。



デンマークにおける福祉プログラムでは、サービスを提供するだけでなく自分達ができることはするという理念に学ぶ点が多かったそうです。高齢者センターでは学生達がカレーを作り、施設の方々に大変喜ばれたとのことでした。幼稚園・小学校は少人数で生徒一人一人がクリエイティブな発想をすることが大事にされているそうです。

台湾の台東大学に短期交換留学した3人は、日本と違い学生が授業で活発に発言しており、学生同士が教えあっていたことが印象的だったと述べました。

ドイツに1年滞在した学生は交換留学第1号と、これまで誰も手掛けていないからこそ価値があり、できるだけ日本人がいない場所・大学へ行くことを勧めていました。ドイツでは子供の頃から自分の意見をきちんと発言するよう育てられ、教師と学生との会話・対話が多い学生参画の授業であることも紹介されました。

彼らが共通して述べていたのは、①英語によるコミュニケーションの重要性②積極的な意思表示の必要性③日本の良さを再発見することの大切さです。

最後に朴澤学長より「報告会は年々、内容が濃くなっています。海外に行くことは日本を知る第一歩でもあり、体験した内容を資料として整理し、このように人前で発表することは、お互いに向きあって学ぶチャンスです。是非継続してください」とのお言葉がありました。34人が得た知識・経験は彼らだけにとどまることなく、これからさらに発展しつつ、後輩たちへと受け継がれていくことでしょう。



## 仙台大学と丸森町社会福祉協議会との連携事業 —丸森たんぼぼこども園「運動クラブ」を初開催



幼児たちと楽しくリズム体操をする山梨講師＝丸森町民体育館

5月22日（水）、仙台大学と丸森町社会福祉協議会との連携事業である丸森たんぼぼこども園（保育所と幼稚園の機能が一体化した施設）の「運動クラブ」が丸森町民体育館で初めて開催され、本学の山梨雅枝講師（ダンス）が4・5歳の幼児約80名と一緒に、60分間、楽しみながらリズム体操を行いました。

参加した幼児たちは、大きな歓声と笑顔でイキイキと体を動かしていました。

本事業は、平成25年4月に仙南地区で初めて開設された丸森たんぼぼこども園の「運動クラブ」の運営について、本学が持つ教育的資源を活用し、「幼児の健全なる発達並びに能力開発」に寄与することを目的としています。

丸森町社会福祉協議会の小野浩昭事業局長は「子どもたちが楽しそうに、ニコニコしながら体を動かしていた。体育の専門大学である仙台大学の先生方から指導してもらえるのが有難い。本事業を通して、運動好きの子どもが増えると同時に、子どもたちの豊かな心、健やかな体が育つことを期待している」と話しました。

なお、本事業は、3月まで20回にわたり開催する予定です。

## 仙台ハーフマラソン大会 国際姉妹都市等交流会



5月12日（日）、第23回仙台国際ハーフマラソンが晴天の下、仙台市内で開催された。

東日本大震災による中止を経て、昨年から市民ランナーにも開放され規模を拡大した今年は、車いすの部などを含め、これまで最多の1万2874人が参加し、女子マラソン五輪優勝の野口みずき選手や世界陸上選手権マラソン代表の川内優輝選手ら有名ランナーとともに、新緑がもえる杜の都を快走した。

大会終了後には、国際姉妹都市・友好都市等からの選手団と仙台市民の交流を目的として、江陽グランドホテルにおいて交流会が開かれ、これも過去最高となる230名が出席し、ベラルーシ共和国ミンスク市や長春市等8国の選手団の紹介や成績発表と表彰、アトラクション等国际色豊かに行われ、交流を深めた。

特に、ミンスク市と仙台市は今年姉妹都市協定締結40周年目を向え、本学においても平成21年度から新体操の先進国であるベラルーシ共和国より新体操競技部のコーチとして指導者を迎えている。現在2人目となるエレナコーチは、東日本インカレの大会と重なり、残念なことに出席はできなかったが、学長をはじめ、中国からの留学生も交流会に出席し、選手団と楽しい時間を過ごした。

<報告：新体操競技部 部長 大山さく子>

## 仙台六大学野球春季リーグ第四節一連勝で勝ち点を2に伸ばす



リーグ通算15勝目を挙げた野口亮太投手(5月3日・東北大学1回戦)



今季リーグ初勝利を挙げた立花完投手(5月5日・東北大学2回戦)



3打数3安打3打点の活躍を見せた5番DH斎藤(5月5日・東北大学2回戦)

仙台六大学野球春季リーグ第四節の5月3日（金）、東北福祉大学野球場で「仙台大学－東北大学」の1回戦が行われました。

わがつましんたろう

仙台大学は一回表、1番我妻真太郎（体育学科4年－山形中央高校出）、2番青木一将主将（体育学科4年－東京農業大学第二高校出）、3番松本桃太郎（体育学科1年－北海高校出）のそれぞれが初球を安打し、3球

まつもとともたろう

で無死満塁のチャンスを作り、6番五十嵐歩（体育学科3年－帝京安積高校出）の右前打などで一挙に4点を

いがらしあゆむ

先制。二回裏、先発野口亮太（体育学科3年－前橋商業高校出）が東北大学打線に捕まり、3点を返され4－3。仙台大学は、二・三・四回と無得点に終わり、序盤は苦しい試合展開を強いられました。しかし、

のぐちりょうた

4－3で迎えた五回表、仙台大学は、柳田恭平（体育学科4年－北海道・鶴川高校出）が中越え2点二塁打を放ち、追加点を取り6－3。これで勢いに乗った仙台大学打線は、六・七・八回にも追加点を奪い、10－3。先発野口は、二回以降を1安打無失点に抑える力投を

やなぎだきょうへい

見せました。八回裏には、金沢光基（体育学科4年－札幌創成高校出）が今季リーグに初登板。1回を三者凡退に抑え、仙台大学は10－3（八回コールド）で東北大学を下し、先勝しました。

かなざわみつぎ

5月5日（日）、東北福祉大学野球場で同2回戦が行われました。

仙台大学は1回裏、先頭の我妻が敵失で出塁。2番青木が四球。3番松本がきっちり送って1死二三塁。4番馬場康治郎（体育学科4年－利府高校出）が四球を選び、1死満塁のチャンスで5番DH斎藤寛生（体育学科4年－聖光学院高校出）の右前打で先制。2死後、7番柳田の左前2点タイムリーで3点を先取しました。4回裏は、我妻・馬場のタイムリーで5－0。さらに続く斎藤が、2死一二塁から右中間を深々と破る三塁打を放ち2点を追加。7－0と主導権を握りました。斎藤は3打数3安打3打点と活躍を見せました。5回裏、1死一二塁から我妻の右前タイムリーで8－0。一三塁から青木のセフティーバントが決まり、相手守備の乱れも重なり一塁走者も生還。これで仙台大学は、10－0（五回コールド）で東北大学に勝ち、連勝で勝ち点を2に伸ばしました。

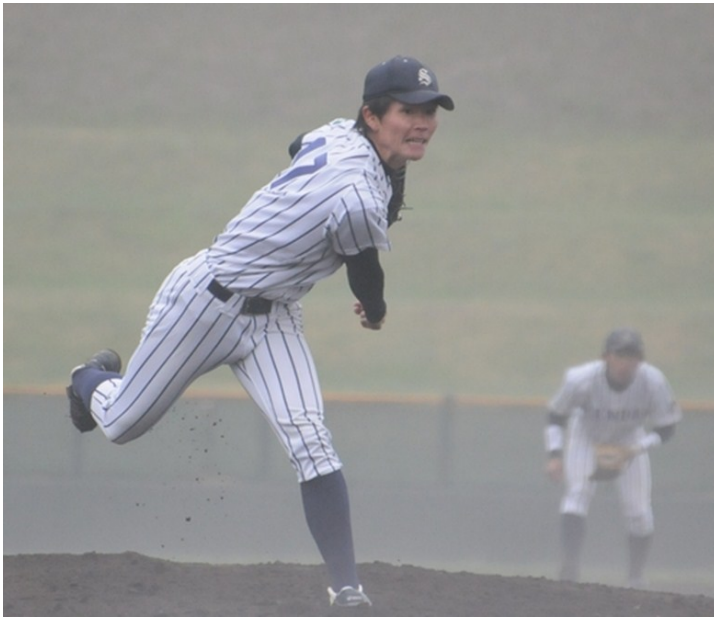
たちばなけん

先発の立花完（体育学科4年－土浦日大高校出）は、130キロ後半の直球とチェンジアップを有効に決め、東北大学打線を5回3安打6奪三振に抑え、今季リーグ初勝利を挙げました。

引き続き、仙台大学硬式野球部への熱い応援を宜しくお願い致します。



## 仙台六大学野球春季リーグ第五節—5季ぶり東北学院大学から勝ち点



最後まで気持ちを切らさず、粘り強く投げた立花投手  
(5月13日・東北学院大学3回戦)



2番青木主将が右前にタイムリーを放つ  
(5月12日・東北学院大学2回戦)

5月13日（月）、1勝1敗で迎えた東北学院大学との第3戦が、東北福祉大学野球場で行われました。

1回表、仙台大学は敵失で先制。しかし、2回裏、1死一三塁から内野ゴロで同点とされました。1-1で迎えた五回表、先頭の1番・わがつましんたろう我妻真太郎（体育学科4年—山形中央高校出）が左前打で出塁。

あおきかずまさ2番・青木一将主将（体育学科4年—東京農業大学第二高校出）が送りバントをきっちり決

まつもともたろうめ、1死二塁。続く、3番・松本桃太郎（体育学科1年—北海高校出）が右越え三塁打を放ち、2-1と勝ち越し。ツーアウトから5番・DH さいとうひろき

齋藤寛生（体育学科4年—聖光学院高校出）の打席で、暴投で三塁走者の松本が生還し、3-1。5回裏、内野ゴロで1点を返され、1点差。7回裏、2死三塁と同点のピンチを迎えますが、後続を内野ゴロに抑えました。仙台大学は、3-2（濃霧による7回コールド）で東北学院大学を下して、2010年秋季リーグ以来、5季ぶりに東北学院大学から勝ち点を挙げました。

この試合は途中、濃霧で1時間13分試合が中断。濃霧による3度の試合中断という悪いコンディションの中でも気持ちを切らさず、粘り強 たちばなかん

い投球を見せた立花完（体育学科4年—土浦日大高校出）の活躍が光りました。立花は、5月11日（土）の東北学院大学第1戦にも先発し、東北学院大学打線を1点に抑え、完投勝利を挙げました。

引き続き、仙台大学硬式野球部への一層のご声援を宜しくお願い致します。

## 仙台大学サッカー部、総理大臣杯東北地区予選一初戦を16-0で大勝



FW川島がこの日4得点目のゴールを決める



後半途中出場のFW新井が左隅へ強烈なシュートでゴールを決める

5月12日（日）、仙台大学サッカー・ラグビー場で「平成25年度第14回東北地区大学サッカー選手権大会兼第37回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント東北地区予選」の初戦が行われ、仙台大学は東北学院大学工学部と対戦（本学サッカー部は2回戦から登場）しました。

仙台大学はキックオフから相手を圧倒しすがいたくやました。前半2分、DF菅井拓也主将（体育学科4年一かわしましろうじ聖和学園高校出）からのクロスを通じた川島章示（スポーツ情報マスメディア学科1年一柏レイソルユース出）が流し込み先制。川島は前半だけでみねざしひかるハットトリックを達成しました。MF嶺岸光（体育学科4年一聖和学園高校出）は動きがよく、積極的なプレーで4得点の活躍。また、後半10分から途中出場した183cmの長身FWあらいれいじ新井伶治（体育学科2年一聖光学院高校出）もフィジカルを生かしたダイナミックなプレーで4得点を挙げる活躍を見せました。菅井主将とMFしげたしゅうと繁田秀斗（体育学科1年一浦和レッズユース出）もそれぞれ2点を挙げ、同東北地区予選の初戦を16-0で大勝しました。

引き続き、仙台大学サッカー部への応援を宜しくお願い致します。

## 女子柔道部一東北学生柔道優勝大会7連覇達成



大会7連覇を達成した女子柔道部の選手たち

5月26日（日）、宮城県武道館（仙台市太白区）で「東北学生柔道優勝大会」が行われ、仙台大学女子柔道部は見事大会7連覇を達成しました。

3校（仙台大学・富士大学・東日本国際大学）によるリーグ戦で優勝が争われ、仙台大学は富士大学に3-0、東日本国際大学に7-0で勝利するという内容。

くどうちか 工藤千佳（現代武道学科2年一青森・五所川原農林高校出）が2試合全てで一本勝ち。1年生ながらしがるみ富士大学戦に大将として出場した志賀成美（現代武道学科1年一福島・磐城農業高校出）が「後ろけさ固め」で一本勝ちを決める活躍を見せましせとみさとた。大会優秀選手賞は、瀬戸美里主将（体育学科4年一東北高校出）が選ばれました。

南條和恵監督は「優勝できてホッとしている。今年のチームは派手さはないが、チームワークが抜群で雰囲気の良いチーム」と笑顔で話し、「全国で十分戦える力はある。全国ベスト8を目標に頑張りたい」と力強く抱負を話しました。

なお、仙台大学女子柔道部は、6月22日（土）に東京・日本武道館で開催される「全日本学生柔道優勝大会」に出場します。

引き続き、仙台大学女子柔道部への熱い応援を宜しくお願い致します。



## 男子サッカー部—総理大臣杯東北地区予選、4年連続29度目の優勝で全国へ



4年連続29度目の優勝を果たした男子サッカー部



延長後半8分、DF菅井主将(2)がPKを決めて2-1とする



FW川島章司(9) (スポーツ情報マスメディア学科1年-柏レイソルユース出)がダイレクトボレーシュートを放つ



DF中條(29)がヘディングシュートを放つ

5月26日(日)、快晴の中、宮城県松島フットボールセンターで「平成25年度第14回東北地区大学サッカー選手権大会兼第37回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント東北地区予選」の決勝が行われました。

仙台大学は富士大学と対戦しましたが、30分間の延長戦でも決着がつかず、PK戦にもつれ込む苦しい試合となりました。前半、相手の勢いのある攻撃により、ピンチを迎える場面もあり

なかじょうわたる  
ましたが、DF中條渡(体育学科3年-東北高校出)らの体を張ったディフェンスで得点を許しませんでした。お互い決定機を決めきれず、一進一退の攻防が続き、前半を0-0で折り返す互角の試合展開となりました。

後半15分、試合が動きました。仙台大学は中盤で相手のボールを奪い、MF嶺岸光(体育学科4年-聖和学園高校出)がドリブルでペナルティーエリア左前に持ち込み、右サイドでパス

にしむらこうじ  
を受けたFW西村光司(体育学科4年-ベガルタ仙台ユース出)が中央に切り込んで先制ゴールを決めました。しかし、後半30分、相手にPKを決められ、1-1の同点に追いつかれました。

その後は双方譲らず、1-1のまま延長戦に突入しました。延長後半8分、MF嶺岸が左サイドを崩してペナルティーエリア内に入ったところを相手DFに倒されPKを獲得。これをDF

すがいたくや  
菅井拓也主将(体育学科4年-聖和学園高校出)が落ち着いて決めて2-1と逆転しました。しかし富士大学も最後まで粘りを見せ、残り1分となった延長後半14分、コーナーキックからDFが頭で合わせ、土壇場で2-2の同点としました。そしてつれ込んだPK戦では、仙台大学が4人連続でゴールを決め、PK戦を4-2で制し、同東北地区予選で4年連続29度目の優勝を果たしました。

試合終了後、吉井監督は「厳しい試合になったが、選手たちは強い気持ちを見せ、本当によくやってくれた。チーム全体で力がついてきた」と手応えを口にし、瀬川ヘッドコーチ(ベガルタ仙台からの派遣)は「最後まで勝つ気持ちを切らさずに、ピッチとベンチが一丸となって戦うことができた。全国大会(総理大臣杯)では、3年前に3位に入ったが、昨年と一昨年はいずれも1回戦でPK負けを喫し、悔しい思いをしている。全国大会でも攻撃的なポゼッションサッカーで上位進出をねらいたい」と優勝の喜びを噛み締め、全国大会での活躍を誓いました。

なお、仙台大学男子サッカー部は、8月8日(木)～大阪府で開催される「総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」に出場します。

引き続き、仙台大学男子サッカー部への温かい応援を宜しくお願い致します。



## 第66回東北学生陸上競技対校選手権大会 —男子棒高跳びで柴田恭平が大会タイ記録で初優勝



自己ベストを更新し、5mの記録で初優勝を飾った柴田の跳躍

5月17日（金）、「第66回東北学生陸上競技対校選手権大会」が宮城スタジアム（宮城県利府町）で行われ、男子棒高跳びで柴田恭平（運動栄養学科3年—山形・楯岡高校出）が5mの大会タイ記録で初優勝を果たしました。

柴田は中学の時に棒高跳びを始め、楯岡高校時代にインターハイに出場しましたが、予選落ち。全国の強さを改めて実感。その悔しさをバネに、仙台大学入学後も努力を続けてきました。

大会タイ記録で初優勝を飾った柴田は「初優勝は正直嬉しい。大学入学後は、5mを越すことを目標に頑張ってきた。これで満足せずに、日本学生陸上競技対校選手権大会（日本インカレ）でも上位進出できるよう頑張りたい」と笑顔で話し、次の大会を見据えていました。

なお、男子棒高跳びは、三宅怜（体育学科1年—岩手・黒沢尻工業高校出）と菅原諒平（体育学科4年—盛岡南高校出）が4m40cmで3位に入りました。



## 第66回東北学生陸上競技対校選手権大会 —男子三段跳びで今野勝貴が3連覇達成

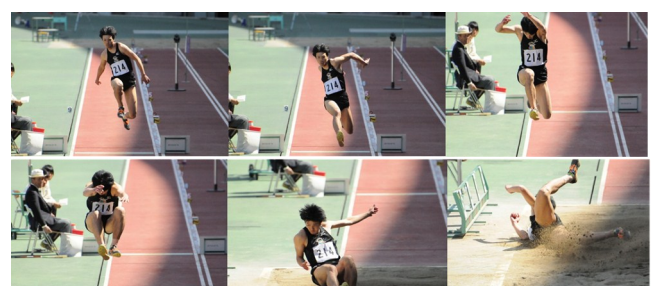


東北学生陸上競技対校選手権3大会連続優勝を果たした今野の跳躍

5月17日（金）、「第66回東北学生陸上競技対校選手権大会」が宮城スタジアム（宮城県利府町）で行われ、男子三段跳びで今野勝貴（体育学科3年—山形中央高校出）が14m88cmで見事3連覇を達成しました。

今野は山形中央高校時代に、三段跳びで2年連続インターハイと国体に出場しましたが、予選敗退。仙台大学入学後は、全国でも通用する選手になることを目標に頑張ってきました。

3連覇を達成した今野は「左脚の怪我を押しての出場となった。3連覇は達成できたが、記録は不満。この大会で右脚も怪我してしまった」と不安を漏らし、「昨年の日本学生陸上競技対校選手権大会（日本インカレ）では、自己ベストを更新（15m54cm）し、11位となった。去年は、僅差で入賞を逃した。早く両脚の怪我を治し、日本インカレで入賞できるよう練習に励みたい」と今後の決意を力強く話しました。





## バスケットボール「全日本クラブ選手権」優勝にOB森繁一コーチが貢献



最後列左から2番目が森コーチ（写真提供=SWOOPS）

3月11日（月）、大阪市中央体育館で行われたバスケットボールの「第39回全日本クラブ選手権」で、OB森繁一もりしげかずコーチ（H8年体育学科卒一岐阜農林高校出）率いる東海地区第2代表のSWOOPSが初優勝を果たしました。

昨年まで森コーチは、SWOOPSのチーム最年長選手（当時38歳）として全日本総合バスケットボール選手権大会に出場するなど活躍。今年からコーチとして、チームの指導にあたっています。

森コーチは「チームが立ち上がって8年目で優勝を掴み取った。優勝した瞬間は感無量だった。当然2連覇を目指すのが、11月に行われる全日本社会人バスケットボール選手権でも全国優勝を狙う」「大学時代は人との出会いに恵まれ、貴重な経験ができた4年間だった。人生を生き抜く上で大切なことは、大学時代のバスケットボールを通して学んだ。世の中は厳しいが、負けずに頑張っていきたい」と力強く話しました。

森コーチの大学時代に、バスケットボール部の監督であった児玉教授は「自分の置かれている状況や立場をわきまえて、その中で高い目標を掲げ、仙台大学の卒業生としての誇りを忘れずに頑張っている森君の姿勢に感動する」と教え子の成長に目を細めて話しました。